

◇ 天野和夫賞 ◇

天野和夫賞

第17回受賞者および選考理由

1. 天野和夫賞の趣旨

本賞は、法哲学者としても活躍された立命館大学元総長・学長、故天野和夫先生のご令室・天野芳子様のご寄付に基づき、法の基礎理論研究の成果によって学問の発展に多大な貢献をしたと認められる、主として若手の研究者を表彰し、その研究を奨励することを目的とする。

2. 本賞の対象

天野和夫研究奨励金規程（以下、規程）第3条の該当者

「法の基礎理論研究において優れた研究をもって学界に貢献した者」

3. 第17回天野和夫賞選考の経過

2019年度については、規程第6条に基づき、山本忠・本学法学部教授（法学研究科長）を委員長とし、田中成明・京都大学名誉教授（法哲学専攻）、高橋直人・本学法学部教授（法史学専攻）、平野仁彦・本学法学部教授（法哲学専攻）、渡辺千原・本学法学部教授（法社会学専攻）、谷本圭子・本学法学部教授（大学院担当副学部長）を委員として天野和夫賞選考委員会が組織された。選考委員会は、2019年9月20日に開催され、選考の結果、以下のように決定した。

4. 第17回天野和夫賞受賞者とその選考理由

規程第3条該当者

網谷 壮介 氏

最終学歴：2016年8月 東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程
(国際社会科学専攻) 単位取得満期退学

* 立教大学法学部助教を経て、2019年4月より獨協大学法学部専任講師
専門分野：政治思想史

学 位：博士(学術) 東京大学(2017年1月)

著 書：『共和制の理念 イマヌエル・カントと一八世紀末プロイ
センの「理論と実践」論争』法政大学出版局(2018年)

【選考理由】

カント政治哲学に関する新しい研究成果である。

人間の本質たる理性、理性的存在者としての人間の自律、そして、自律に基づく共和主義的な政治的秩序構想。しかしカントは単に理念を説くのみ
の哲学者ではなかった。理念と現実を架橋する理性的方途をも示していた
のであり、そこに光を当てた点に本書の独自性がある。すなわち、カ
ントは「非政治的な哲学者」ではなかった。

カントの共和主義的秩序構想を本書では、『人倫の形而上学：法論』、
「啓蒙とは何か」、『永遠平和のために』などの検討を通して明らかにして
いるばかりでなく、『ベルリン月報』誌上における政治論争やいわゆる
「俗言」論考を手掛かりとして、カントが生きた18世紀プロイセンの政治
的現実の文脈に位置づけながら、その政治性ないし実践性を詳細に明らか
にしている。そしてカントは、政治的現実を理性的かつ共和主義的な秩序
構想へ近づける方途を「変革の戦略」として示していると指摘している。
理念とかけ離れた不完全な状態を、理念への途上として理念に向かう限り
で暫定的に受け容れる「許容法則」を基礎に、抵抗と抗議を区別し、抵抗
を力による国家権力への対峙であるとして否定する一方、主権者に改革を
促す公共的な言論たる「抗議」の重要性を説き、それを根源契約に基礎づ
けているとするのである。

本書は東京大学へ提出された学位論文を短縮修正されたものである。カ

ント哲学の実践性が、合法性と道德性の峻別や叡智界と感性界の二分にどのように関わるか、新カント学派が重視してきた超越論的方法とどのような関連性を有するか、また、非共和主義的支配者をして市民的公共性の議論に耳を傾けさせるものは何かなど、なお解明されるべき点はあるが、これまでの研究の欠缺を埋め、理念と現実、理論と実践を架橋するカント哲学の現実的可能性を示してカント研究に新しい地平を切り拓いた。政治的現実を変革していく上で「法」が不可欠であることを、理性法の理論の延長に非理想論として許容法則が位置づけられることを示し、現代社会における権力政治の現実に示唆するところも多い。論述は明確かつ重厚であり潜在力の高さを伺わせる。天野賞に相応しい研究成果であると評価された。

5. 天野和夫賞授与式

2019年11月15日、本賞の受賞者出席のもと、谷本圭子・大学院担当副学部長の司会により「天野和夫賞第17回授与式」が開催された。上野隆三・本学副学長より賞状ならびに副賞の授与が行われ、山本忠・選考委員長より選考理由の報告が行われた。そして、受賞者の網谷氏から感謝の辞が述べられたのを受けて天野芳子様よりご祝辞をいただいた。授与式は、関係各位の出席を得て、晴れやかに行われた。